

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	一般社団法人 ジャパン・シンフォニック・ウインズ
公演団体名	シエナ・ウインド・オーケストラ

内容
<p>木管楽器奏者1名、金管楽器奏者1名、打楽器奏者1名、ピアニスト1名、スタッフ2名にて行います。</p> <p>木管楽器と金管楽器、それぞれの音の出る仕組みを解説し、ピアノ伴奏によるソロ曲の実演で楽器の音色を実際に体感します。その後は打楽器奏者により、様々な種類の打楽器や奏法などをレクチャーします。</p> <p>休憩をはさみ、本公演の楽しみ方のレクチャーや体験コーナーで取り上げるボディパーカッションについてのレクチャー、共演する曲「ロック・トラップ」と「サンドペーパーバレエ」の指導を行います。</p>

タイムスケジュール（標準）
11:30 スタッフ・楽員 学校入り
12:00-12:30 ゲネプロ
13:30-14:50 本番
15:20頃 退出

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
楽員 4名（木管楽器奏者、金管楽器奏者、打楽器奏者、ピアニスト 各1名）
事務局スタッフ 2名

学校における事前指導
共演する楽曲のお手本動画を限定配信し、ワークショップに参加する児童・生徒に事前に見てもらい、当日の指導がよりスムーズになるようにします。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	一般社団法人 ジャパン・シンフォニック・ウインズ
公演団体名	シエナ・ウインド・オーケストラ

演目
<p>【オープニング】</p> <p>リード:「吹奏楽のための第一組曲」より“ギャロップ”</p> <p>【2拍子】</p> <p>ウィルソン:76本のトロンボーン(トロンボーン)</p> <p>ビゼー:歌劇「カルメン」より“ハバネラ”(サクソフォーン)</p> <p>アンダーソン:クラリネット・ポルカ(クラリネット)</p> <p>【3拍子】</p> <p>サン・サーンス:「動物の謝肉祭」より“ぞう”(ユーフォニアム・テューバ・コントラバス)</p> <p>ビゼー:歌劇「アルルの女」より“メヌエット”(フルート)</p> <p>リード:エル・カミーノ・リアル(ホルン)</p> <p>—休憩—</p> <p>【4拍子】</p> <p>モンテルデ:マカレナの乙女(トランペット)</p> <p>チャイコフスキー:「白鳥の湖」より“四羽の白鳥の踊り”(オーボエ・ファゴット)</p> <p>ハチャトリアン:組曲「ガイース」より“剣の舞”(打楽器)</p> <p>(共演コーナー)</p> <p>①アンダーソン:サンドペーパーバレエ ②シンスタイン:ロック・トラップ</p> <p>【5拍子】</p> <p>シフリン:ミッション・インポッシブル</p> <p>【6拍子～変拍子】</p> <p>ロジャース:「サウンド・オブ・ミュージック」より“私のお気に入り”</p> <p>【アンコール】</p> <p>スーザ:星条旗よ永遠なれ or 和泉宏隆:宝島</p> <p style="text-align: right;">公演時間(80～90分)</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
指揮 1名、司会 1名、オーケストラ 43名
舞台スタッフ 8名、事務局スタッフ 2名
計 55名

タイムスケジュール(標準)
09:00 スタッフ入り、仕込み開始
11:30-12:30 ゲネプロ
13:30-14:50 本番 終演後バラシ・搬出作業
16:00頃 退出

実施校への協力依頼人員

特になし

演目解説

本プログラムの構成は、吹奏楽で使われる各楽器にスポットを当てながら「拍子」をフィーチャーした構成になっています。

2拍子、3拍子、4拍子、5拍子、6拍子の楽曲を取り上げ、各楽器の特性についての解説をわかりやすく織り交ぜながら、拍子が変わることにより曲想や音楽の持つ特質などを学んでいくことを主眼としています。

各楽器の音色がどのように拍子に関わり、それぞれの曲の表現に影響を与えているかなど、低学年には直感的に、高学年から中学生にはより興味がわく内容に仕上げ、幅広い学年で楽しみながら学べるようにしました。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

共演コーナーでは、「サンドペーパーバレエ」と「ロック・トラップ」で、ボディパーカッションを体験します。「サンドペーパーバレエ」では、打楽器奏者が前方へ出て、サンドペーパー（紙やすり）で演奏します。打楽器奏者がサンドペーパーでリズムを刻む行為を手洗いに見立て、児童生徒たちは自分の手をこする音でリズムを刻み、毎日行っている手を洗う仕草でまねることで共演します。「ロック・トラップ」では、前曲同様、打楽器奏者が前方へ出て、ボディパーカッションのための楽曲を立奏します。曲の途中にコール&レスポンスの部分を作り、打楽器奏者が手や足などボディを使ってリズムを実演し（コール）、それを児童生徒がまねること（レスポンス）で共演します。

児童生徒とのふれあい

コロナ禍においては実際に距離を縮め、ふれあうことが困難です。ソーシャルディスタンスを保ちながら、リズムを掛け合うことで心のふれあいを感じ取れるように工夫します。